樽前山

○地磁気全磁力

顕著な群発地震活動直前の2013年6月11-13日に反復磁気測量を行い，直近の１年間の全磁力変化を求めた（図１）．主要な２地点については時系列グラフも示す（図２）．観測された変化パターンは磁気双極子のつくる磁気異常でよく近似され，溶岩ドーム直下の約400m深付近が冷却したことに相当する．噴気量の低下や，山頂部の収縮の鈍化が見られ始めているが，全磁力の変化傾向は2010年以来一貫して続いており，帯磁源の位置にも顕著な変化は見られない．

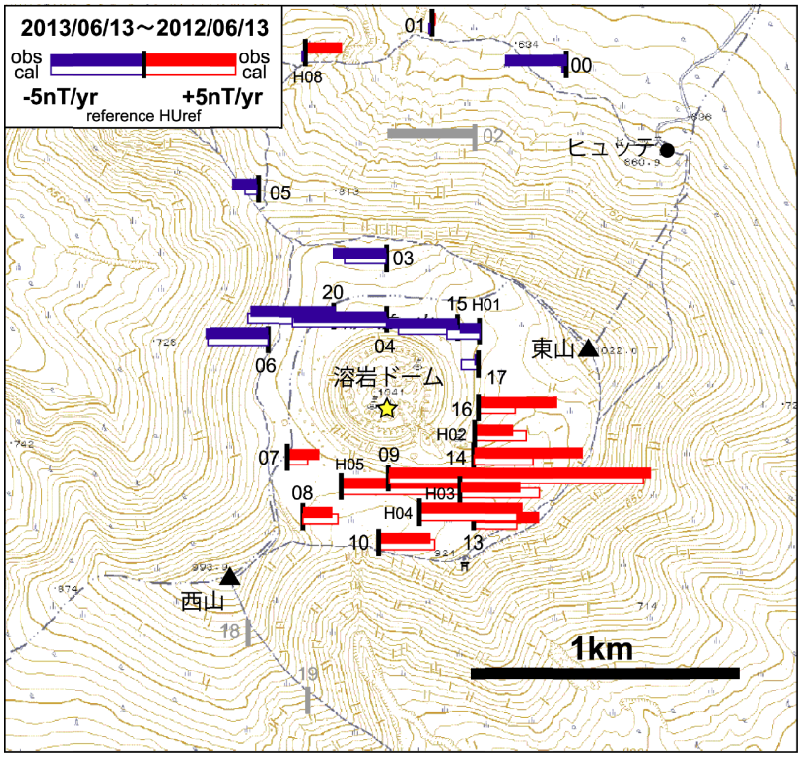

図１．2012年6月～2013年6月の全磁力変化．白抜きは磁気双極子による計算値（ソース位置は★で示した）．参照点は，山頂ドームから北東に約4km地点

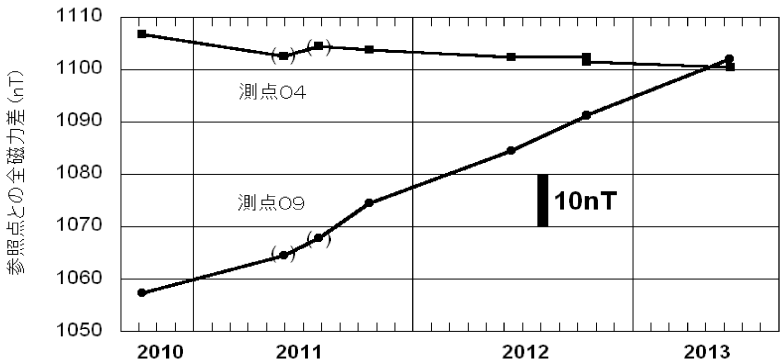

図２．測点04と09の全磁力変化時系列（参照点は00地点に換算．括弧付きは参考値）

（橋本・松本・鈴木）